

「三寒四温と月の冴え」(家の光/やさい畑・春号) 15.02.16

昨年の春の訪れは、例年になく三週間程度も早く、東京・上野の桜も三月に一気に満開となった。師走に入り、気象庁の3ヶ月予報が、遡って前例のない訂正となった。エルニーニョ現象などの読みは難しく、暖冬予想から、一転して寒い十二月とされた。

天気予報は、大別して三種類ある。当日から翌々日までの短期予報。翌日から1週間先までの週間予報。1か月から3か月先までの季節予報である。

季節予報は、主に統計的手法により、精度の向上がはかられている。

菜園生活を楽しく充実して過ごすには、最新の短期予報と週間予報とを点検することが大切だ。週間予報の変化が激しい時は、要注意。

春は、一年の菜園生活のスタートで、上手な種まきが収穫の楽しみにつながる。種まきのポイントは、天気の読み。お湿りの翌日や、種まきの夜から翌日までに適度の雨が降るのを予測して作業すると、日ごろ、野菜作りに不慣れな人にも、効果がある。

春の天気の変化は激しいが、気象のことわざに「三寒四温」というのがある。

これは二月ころの季節の天気変化をよく言い表している。寒い日が三日続く、その後四日温かい日が続くことをいう。

待望の三月に入ると、その七日周期から、およそ四日周期の変化になってくる。すなわち、冬型の西高東低の気圧配置に代わり、大陸から移動性高気圧が訪れ、天気の変化が早くなる。

この周期をとらえ、二日目を上手く作業日に当てる工夫をすると良い。

さらに気象を予測するヒントを一つ。雪のない地方で、月がいつもより冴えて冷える春の夜は、翌朝が霜となる確率が高い。作業の前夜は月を眺め、気温の変化をメモすること。

すなわち、移動性高気圧の下、雲もとれ、晴れた夜間に地面から熱が放射する条件が整うと、畑などの地面の冷え込みで霜となる。このような時には、たいがい霜注意報が出ている。週末菜園愛好家にとって、これからの季節、空を見上げ、晴耕雨読の日々が続く。

(気象情報システム株式会社 高 津 敏)

菜園家に朗報です！

[ウエザーコンタクト](#)と注意報・警報・地震情報(携帯コンテンツ21)にて、価値ある気象情報をリアルタイムでサービスしています。